

# 第八回

## いわた俳句大会 入賞作品集

主催 いわた俳句大会実行委員会



# 第8回いわた俳句大会

## 1 表彰式・俳句未来塾 次第

・開催日 令和5年2月12日(日)

・会場 ワークピア磐田

・日程

11:00 開場・当日句(季語:冬または春)受付

12:00 当日句受付終了

13:00 開会

事前投句 表彰式・選評

(休憩)

14:05 俳句未来塾 「選者の語る感銘句」

(休憩)

15:25 当日句 表彰式・選評

16:00 閉会

## 2 入賞作品

・一般の部	.....	3頁
・中学生の部	.....	7頁
・小学生の部	.....	11頁

## 大会選者



西村和子 先生

神奈川県出身。俳誌「知音」代表

1984年第7回俳人協会新人賞、2007年第46回俳人協会賞など受賞。著書は、句集「夏帽子」、「心音」、評論集「虚子の京都」など多数。

俳人協会理事や毎日俳壇選者など。



岸本尚毅 先生

岡山県出身。俳誌「天為」「秀」同人

1993年第16回俳人協会新人賞、2012年第26回俳人協会評論賞など受賞。著書は、句集「雲は友」、「文豪と俳句」、編著「室生犀星俳句集」など多数。角川俳句賞などの選考委員、岩手日報・山陽新聞俳壇選者など。



高柳克弘 先生

静岡県出身。俳誌「鷹」編集長

2008年第22回俳人協会評論新人賞、2010年第1回田中裕明賞など受賞。

著書は、句集「未踏」、評論集「究極の俳句」など多数。

2021年4月から「NHK俳句」選者、中日俳壇選者など。

いわた俳句大会

入賞作品

# 一般の部



西村 和子 選

特選

燕去ぬ遠つ淡海の高曇り 太田和志

秀逸

鬼踊り町のへそから鈴の音 羽住玄冬

盆提灯男所帯を灯しけり 青島美子

入選

鬼踊遠つ淡海の海も鳴る 鈴木邦子

変調の笛に昂る祭獅子 柴田近江

間を置かず吹き手代りぬ祭笛 太田和志

どんぐりの歌のやうには転がらず 太田和志

コスモスを振れば山羊の子寄りて来る 渥美絹代

隣人のくさめ聞こゆる裏戸かな 金子由美子

祭笛習ふ日に日に稲穂波 植田密

岸本 尚毅 選

特選

川風や社務所に習ふ祭笛 松下允子

秀逸

サッカーを終へ飯かつ込んで鬼踊 貞住牛鬼

長寿とて悲しきことも枯芙蓉 高橋和代

入選

ベニスは春吾の関節のゆるみだす 鈴木茂子

放水のダムや燕の去りし後 柿内清一

ゆつくりと息するやうに初日の出 橋本晶子

神も居て人間も居て鬼踊 袴田一博

磐田市に親友のをり秋祭 榛葉君江

霜載せしポストの庇駅無人 高木春夫

一つ消え二つ光りし螢籠 鈴木美千代

高柳 克弘 選

特選

存分に踊つて帰る東海道 羽住玄冬

秀逸

間を置かず吹き手代りぬ祭笛 太田和志

サッカーを終へ飯かつ込んで鬼踊 貞住牛鬼

入選

普段着で登つてゐたる秋の山 林 浩世

「合点」と裸祭の尻黒子 神野裕子

爪切つてかざせば若葉風の色 鈴木茂子

議員さん幼子抱きて祭の輪 小原恵子

枯菊を括る縄にも香の移り 高部宗夫

解答はみんな花丸林檎むく 原美香子

髪染めをやめてセーター新色に 松本厚史

いわた俳句大会 入賞作品

# 中学生の部





西村 和子 選

特 選

明日まで見える気がした夏の空  
サメジマリエ

秀 逸

道端で立ち止まり見る花火かな  
川島颯太

今週は雨が  
多いよ柏餅  
高橋姫夏

入 選

秋の夜狂喜乱舞に練り歩く  
山根ゆず穂

帰り道空まで響く虫の声  
太田隆貴

雨過ぎて待ってましたと蝉の声  
吉田千優

雨の中立春大吉の光あり  
鮫島理恵

あと一歩後悔だけが残る夏  
渡邊 暖

涼風がふきぬけていく朝の部屋  
鈴木詩乃

朝早く生まれた蟬が草の上  
八木芽衣

岸本 尚毅 選

特 選

ズキズキと秋雨が降る釣ったイカ 青島感治

秀 逸

今週は雨が多いいよ柏餅 高橋姫夏

大きな葉ポタポタしづく梅雨晴に 後藤海咲

入 選

毎日見られている梟 塩澤快翔

三年生体重増えてくブロッコリ 鈴木脩介

うちつけたボールの音と梅雨の音 島田 歩

グラウンドトンボの目線で見回して 石川大葵

横見ると稲穂がそよぐ帰り道 ヨコテアケミ

梅雨入りどんどん減ってく頭痛薬 川島健瑠

亡きペット鉢に芽を出し風光る 鈴木音々華

高柳克弘 選

特選

春疾風教科書に書くフルネーム 高田菜花

秀逸

蝉しぐれ水飴とけて光る糸 本間佐徠

せまりくる提出期限ぶらんここぐ 幸田羽流

入選

予鈴鳴るパチツと消えるしゃぼん玉 宮嶋莉子

手に取ればすぐに飛んでくかえるかな 宮澤柊羽

野球部に入ったばかりおたまじゃくし 堀内太琥

雪合戦親子そろってガチモード 江塚安里

体育後ひやし中華のひとくち目 原胡太朗

梅雨の日につまらんことで笑ってる 植田紗羽

夏深しそうじをすると宝あり 飯田陽向

いわた俳句大会

入賞作品

# 小学生の部



西村 和子 選

特 選

まつりあと道路をみると白い線  
江塚 誠

秀 逸

三年ぶり祭り話にむねさわぐ  
浅井奏都

見ているとなんだか切ない彼岸花  
鈴木美晴

入 選

木犀の香りの中へ帰りゆく  
山本瑠菜

カヌーの上耳をすませば川の音  
伊藤帆高

お祭りの本当の意味は何だろう  
北村健翔

秋の朝寒さがはだにとりつくよ  
石橋絵里加

磐田市の桶ヶ谷沼の赤とんぼ  
安藤しおん

ホトトギス本音を言うと目立ちたい  
山崎有紗

満月にみとれたぼくは時わすれ  
浅井奏都

岸本 尚毅 選

特 選

遠くには小さなやたいがゆれている 上田万結

秀 逸

ひらひらとお花のようだきのこかな 高橋佑有奈

秋の朝寒さがはだにとりつくよ 石橋絵里加

入 選

窓を開け空見て笑う夏の星 佐々木匠

なんだこれかぼちゃには顔皆仮装 青島倭大

せんすもちたいことふえにあわすおどり 鈴木大騎

秋がくるきんもくせいとたいこの音 大竹杏依

キラキラと木からたくきんどんぐりが 神田青空

木犀の香りの中へ帰りゆく 山本瑠菜

磐田市のはだか祭りはすすしそう 徳永安菜

高柳克弘 選

特選

ホトトギス本音を言うと目立ちたい 山崎有紗

秀逸

ひらひらとお花のようだきのこかな 高橋佑有奈

川遊びつるつるすべりおにごっこ 知念大悟

入選

朝ごはんキノコのスープ秋いっぱい 稲垣颯真

柿色のまぶしい色が美味しいな 渥美ひかり

ふゆやすみしようぎぜったいつよくなる 茂松颯一郎

キラキラと木からたくきんどんぐりが 神田青空

やっときたばちをもったらまつりきぶん 伊藤清

あせぬぐい力をこめて竹刀ふる 渡邊聡太

男の子とんぼさがしにびゅんびゅんと 真壁柚花

# 第八回いわた俳句大会

発行日 令和五年二月十二日（日）

編集・発行 いわた俳句大会実行委員会

問い合わせ先 いわた俳句大会実行委員会事務局

（磐田市教育委員会事務局教育部教育総務課）

〒四三八―八六五〇

静岡県磐田市国府台三十一

TEL〇五三八―三七―四八二一

